

北海道室蘭市は、平坦な埋立地に工場が建ち、急な傾斜地に人々が住むという特徴的な街であり、室蘭市民は坂と共に暮らしてきた。私のアルバイト先である住宅が建つ室蘭市みゆき町も、そのような「室蘭らしい」地域であり、急な坂道に沿って住宅が建てられている。眼下に広がる風景や坂に沿って築かれるコミュニティなど、この地域には確かに「傾斜地でしか味わえない豊かさ」があった。

しかしここ数年、住人達が利便性を求めて平坦な土地へ引っ越し動きが増え、室蘭の地形が与えてくれる豊かさは見過ごされるようになってきた。

本計画では、この地域の空き家を段階的にリノベーションすることにより「傾斜地に集まって住む豊かさ」について再考する。

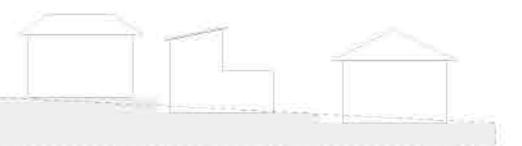


Concept

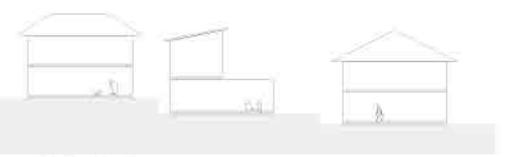
敷地として選定した街区は、雑壇造成の際に設けられた擁壁によって、各々の敷地境界がはっきりと示されている。そのため、住人のプライバシーが守られ易い反面、周囲との関係がとりにくくなっている。

また、少子高齢化が進むにつれ、空き家が多くなり、住人がいても住宅の2階部分がほとんど利用されていない。今後さらに空き家が増加することを想定してこのような傾斜地の住宅群を、1つの集合住宅として再構成する。

敷地が造成される前は一つの斜面だったことに着目し、傾斜を活かしたひとつながりの共有空間をつくる。既存戸の1階と屋根はそのまま残しつつ、住宅の2階部分の壁を取り払ってつなげることで、屋根つきのテラスやサンルーム、庭として利用できるコモンスペースが生まれる。



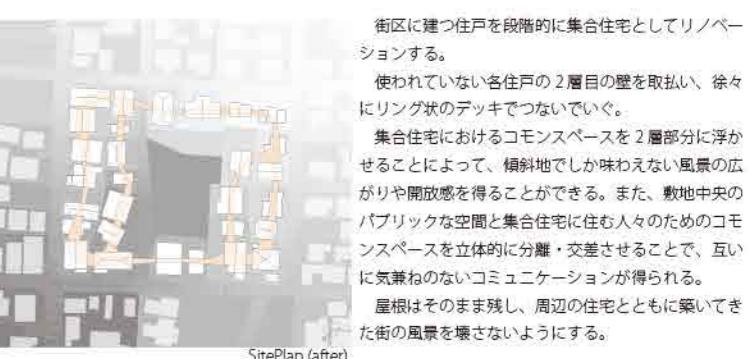
雑壇造成され、切り分けられた土地の上に住宅が建てられる
擁壁によって隣家との境界が強く表れ、関係がとりにくい



少子高齢化の加速
現在は2階部分がほとんど使われておらず、空き家も増えつつある



2階部分の壁を取り払い、ひとつながりのコモンスペースをつくる
造成される前の傾斜した地面をそのまま2階に持ち上げたような構成を
段階的に作る



街区に建つ住戸を段階的に集合住宅としてリノベーションする。

使われていない各住戸の2階部分の壁を取り払い、徐々にリング状のテッキでつないでいく。

集合住宅におけるコモンスペースを2階部分に浮かせることによって、傾斜地でしか味わえない風景の広がりや開放感を得ることができる。また、敷地中央のパブリックな空間と集合住宅に住む人々のためのコモンスペースを立体的に分離・交差させることで、互いに気兼ねのないコミュニケーションが得られる。

屋根はそのまま残し、周辺の住宅とともに築いてきた街の風景を壊さないようにする。

Site Plan (after)